



特集！湯築城の構造 1

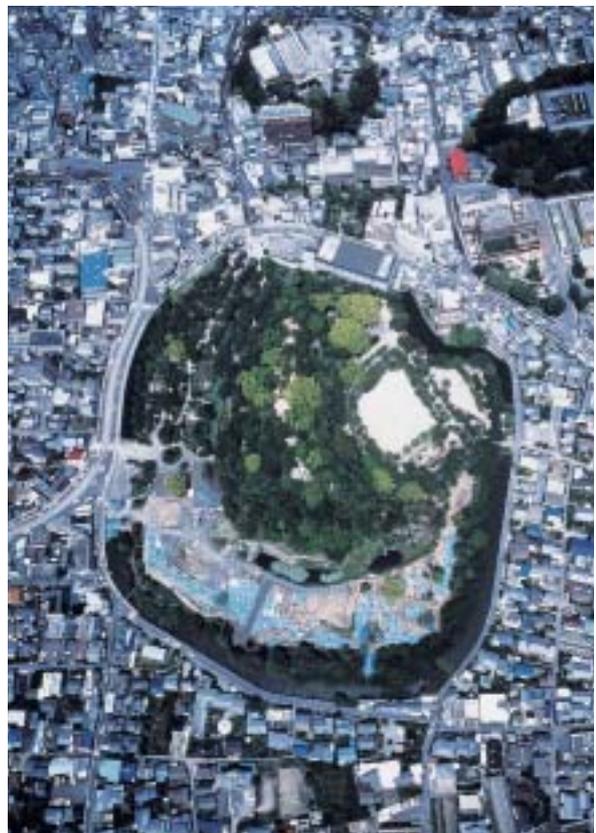
湯築城跡は、昭和 63 (1988) 年度からこれまでに、丘陵南部の面的な調査をはじめ、丘陵部や東部・西部のトレンチなどによる部分的な試掘調査を行ってきました。発掘調査によって、湯築城の内部の構造についてどこまでわかってきたのでしょうか。

●湯築城の形●●●●●

松山市街地の中にありながら、現在の道後公園の範囲は、戦国期（16世紀前半）に整えられた湯築城の平山城とよばれる形をよく残しています。

湯築城跡は、全体で南北が約 350 m、東西が約 300 mあり、面積は約 8.6 ha です。中央には平地部からの高さが 30 mほどの丘陵部があり、そのまわりを二重の堀と土塁が取り囲んでいます。外堀内側に平地部が取り込まれ、なかでも丘陵部の西～南側と東側には広い空間が広がっています。そして、外堀によって囲まれる全体の形は、各所に直線と角が意識されており、多角形とか亀甲形とよばれています。また、鬼門の方角である北東隅部分は内側に四角くえぐれたような形をとり、湯築城は大変独特な形態をしています。

南部の外堀土塁の調査では、外堀を掘った土を内側に盛りあげて、基底部の幅約 20 m、高さ約 5 mの大規模な土塁が築かれていることがわかりました。外堀と外堀土塁をあわせるとかなり大規模な防御施設となり、文献からも、湯築城の外堀「温付堀」の築造は、伊予国分寺（今治市）や仙遊寺（越智郡玉川町）など伊予国内から多くの人手を集めた大土木工事であったことがうかがえます。



湯築城の全体形（南から）

●湯築城の変遷

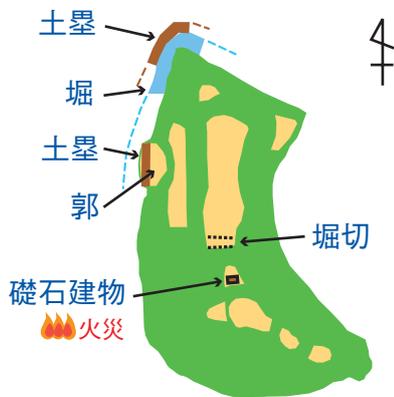
発掘調査や文献の研究によってわかってきた、湯築城の形態変遷をまとめてみましょう。

14世紀前半頃

?

「興国三年（1342）湯築城責」（『忽那一族軍忠次第』）という記録によって、14世紀前半には湯築城が存在したことがわかっています。

15世紀後半～16世紀初頭



丘陵部が、山城として利用されていました。

丘陵部には礎石建物が存在し、16世紀初頭頃に火災にあっています。西裾には土塁をもった郭が造られています。また、丘陵北側に堀（後の内堀）と土塁も存在していました。

丘陵部で見つかった堀切も、この頃のもの可能性があります。

16世紀前半



外堀と外堀土塁が築造され、二重の堀と土塁を巡らせた平山城の形態が完成しました。

文献から、天文四年（1535）に築造された「温付堀」が、湯築城の外堀であると考えられています。

堀と土塁の築造によって、あらたに設けられた搦手門が発見されています。城内に取り入れられた平地部には、道路や居住区が設けられました。居住区内では、土塀や溝による区画や礎石建物などの跡が見つっています。

丘陵部には鍛冶炉が集中し、城の大改修にともなって、城内で鉄製品の生産が行われたと考えられます。丘陵部の礎石建物はこの段階のもの可能性があります。

16世紀前半～中頃



基本的な城の構造に変化はありませんが、城内が再整備されました。

前段階で造られた平地部の道路や排水溝、区画と礎石建物など、全てがあらたに造り直されています。

居住区の西側には、土塀などで小区画を設けた家臣団居住区が存在します。東側は広い区画に庭園をともなっていて、かなり身分の高い上級武士などの居住区と推定できます。

丘陵部には、引き続き礎石建物が存在した可能性があります。

16世紀中頃には、平地部は大規模な火災にあい、ほとんどの構造物は焼失しました。

16世紀後半



大規模な火災後に整備され、部分的な改修を経て、廃城まで継続します。

搦手門は、位置が少し東に移動します。大手門と上級武士居住区の間、遮蔽土塁が設けられます。内堀土塁は、ほとんど高さがなくなり、土塁として機能していないと考えられます。

家臣団居住区と上級武士居住区は引き続き存在し、上級武士居住区内の西側には池が造られます。

丘陵部には礎石建物が存在したと推定されます。

搦手門の周辺は最終的には火災にあっていますが、一部火災後に建てられた建物も見つかっています。上級武士居住区でも火災の痕跡が認められました。

※図は、おもな遺構の模式図です。
堀や土塁は、一部推定復元しています。

●中世を知ろう!

かわらけと武家儀礼

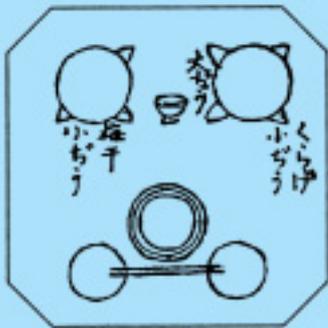
室町時代の守護大名の城館などを発掘すると、大量の「かわらけ」（土師質土器の皿）が出土します。湯築城跡も例外ではありません。

室町時代は、京都の足利将軍を頂点とした武家社会において、様々な慣習や作法が形成され、重んじられた時代です。軍陣や殿中での作法はもちろん、身分格式や様々な通過儀礼（誕生祝・成人祝）などに応じて、種々の慣習や作法が尊ばれました。かわらけの大量出土も、それらの武家儀礼と関わりのある現象としてとらえられています。

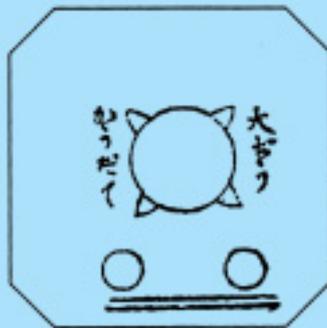
多量のかわらけを使用した儀式として、主従関係などを確認する盃事である「式三献」とそれに続く宴会の場が挙げられます。「式三献」は、初献から三献まで、大きさまで指定されたかわらけに決まった料理を出し、酒を注ぐ人や飲む順番、かわらけを置く場所まで指定されている厳格な儀式で、出された料理は食べない、箸にも触れないのが決まりでした。その儀式を終えると宴会となりますが、その場でもかわらけが使用されました。

このような土器を正式な食器とする武家儀礼は、鎌倉時代の蔵人所（宮中の雑事をつかさどる役所）の侍の儀礼に起源があり、室町時代に盛行したと考えられています。

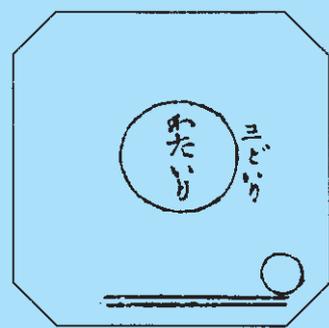
式三献の一例



初献
「三盆」と、料理は「大ぢう」にくらげ、「小ぢう」に梅干。箸は「みみかわらけ」にのせ、先を「しほ（塩）かわらけ」にのせる。



二献
「大ぢう」にかうだて（紙立）して刺身をのせ、「しほかわらけ」と「小ぢう」におろし生姜などを入れる。



三献
「三どいり」にわたいり（鯉の料理）を盛る

※ 「 」内はかわらけ。大ぢう・小ぢう・三どいりは大きさを示しています。

（脇田 1997より）

参考文献

二木謙一『中世武家の作法』吉川弘文館 1999

脇田晴子「文献からみた中世の土器と食事」『国立歴史民俗博物館研究報告第71集』 1997

●第2回湯築城跡シンポジウム

「湯築城をとりまく西瀬戸の戦国群像」

～河野氏・大内氏・大友氏の活躍とその遺跡～

11月16日（日）には、愛媛県教育委員会と（財）愛媛県埋蔵文化財調査センターとの共催で、第2回湯築城跡シンポジウムを開催しました。大内氏の歴史と大内氏関連遺跡について古賀信幸さん（山口市市史編さん室）から、また大友氏と中世大友府内城下町跡について坂本嘉弘さん（大分県教育庁文化課）から、最新の発掘調査成果を交えての発表がありました。また、河野氏と湯築城跡については、松村さを里（湯築城資料館）が発表し、その後、柴田圭子（湯築城資料館）の進行により、発表者3名による討論が行われました。大内氏、大友氏、河野氏という室町時代から戦国期の守護であった各氏の特徴を、遺跡から比較してみても、館の特徴や儀式や宴会に使った土師質土器の皿の特徴などが共通し、また大内氏がつくった山口の都市や、大友氏の南蛮貿易やキリシタン大名としての特徴など、西瀬戸の戦国大名の個性についても議論されました。

会場となった松山市立子規記念博物館には、220人を越える参加者が集まり大変盛況でした。



●平成15年度湯築城資料館企画展

「湯築城周辺の遺跡展

～みえはじめた城下のすがた～

7月15日～11月9日の間、武家屋敷2において企画展を開催し、湯築城跡の西側に隣接する道後町遺跡をはじめ、周辺の中世集落の発掘成果も合わせて展示しました。開催期間中、約8,000人の方々が見学に来られました。



●松山ライトアップ2003「^{とも}夢灯す いにしへの里 湯築城」



12月20日～1月12日まで、道後公園内西側の「いこいの広場」がライトアップされました。いつもと違う幻想的な光に満ちた湯築城が楽しめました。

主催 松山ライトアップ実行委員会

●ボランティアガイドの声

ボランティア協議会主催の紙芝居「河野氏のヒーローたち」を上演したボランティアガイドより

11月16日、湯築城跡シンポジウム当日の午前11時。真っ青な秋空と丘陵部の紅葉をバックに、上級武士居住区の広々とした芝居の中で、私達ボランティアガイドは、「河野氏のヒーローたち」という紙芝居をしました。語り部の男性は直垂姿で登場し、河野氏の家紋の入ったのぼりも立てられ、「まわりの空気は中世！湯築城真っ只中！」といった感じでした。約40名の観客の皆さんは昔なつかしい水あめをなめながら、熱心に耳を傾けて下さいました。「アンコールはないの?」「今度はいつ?」「何かで知らせよ」などとてもうれしい言葉をいただき感激し、忘れられない一日となりました。



なお、あらたに「中世の伊予と湯築城」も近日上演しますので、乞う!ご期待!



「本壇」展望台からの眺め

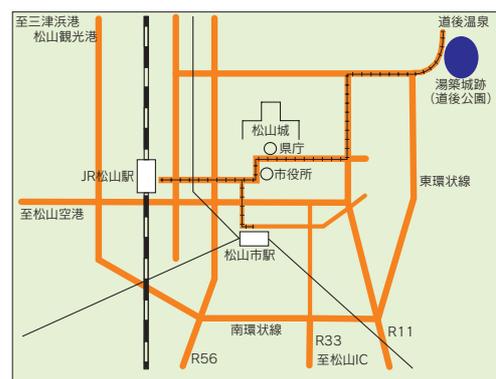
●湯築城の自然ひとコマ●

丘陵頂部（標高71.4m）は、江戸時代には「本壇」と呼ばれた湯築城の要所です。丘陵の頂部にある展望台からは、松山平野のほぼ全体が見渡せます。とくに西向き眺めが素敵です。市街地の中にポッコリと松山城、その遠方には伊予灘や防予諸島の島影を望むことができます。

松山平野を基盤として瀬戸内海に威を振るった、中世河野氏の歴史を感じることのできるスポットのひとつです。

<<利用案内>>

- 公園
常時開園（24時間OPEN）入園料無料
- 展示施設
入館料無料
9時～17時
休館日/毎週月曜日（休日の時は翌日）12月29日～1月3日



■編集後記■

年末から、湯築城跡西側のヒマラヤ杉がライトアップされ、夜の湯築城跡に浮かび上がった大きな光のツリーは大変話題となりました。また今年度は、資料館として最初の企画展を開催しました。大変好評で、今後の企画展を期待しているとのほげましの声もいただきました。楽しい企画展を開催しますので、応援よろしくお願ひします。(M)

湯築城だより 4号

編集・発行 湯築城資料館

〒790-0857

愛媛県松山市道後公園

TEL 089-941-1480

FAX 089-941-1481

http://www11.ocn.ne.jp/~yuzuki-j/yuzuki_top.htm